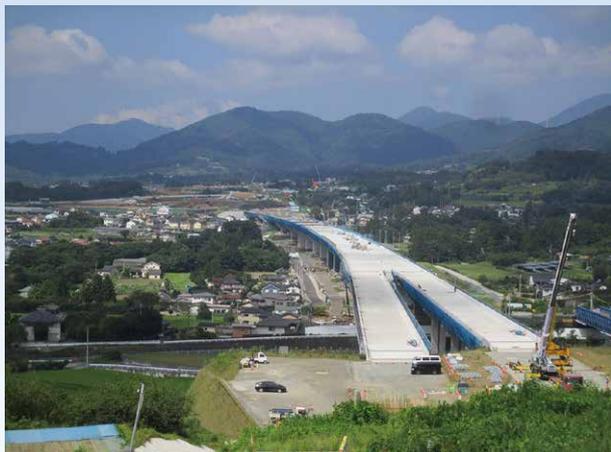


ぼだいよこて  
菩提横手遺跡第1地点

秦野市 No.195 遺跡



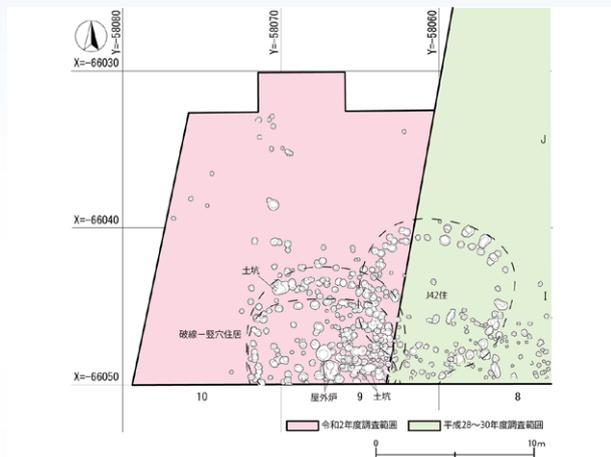
1. 遺跡近景



2. 中世地下式坑



3. 縄文時代竪穴住居・小穴



4. 縄文時代遺構全体図

● 主な調査成果

平成30年度の調査で「大形中空土偶」が出土した地点の西に隣接した部分にあたります。発見した遺構は、近世では土坑7基、小穴61基、中世では地下式坑2基、縄文時代では、後期の竪穴住居3軒、屋外炉3基、焼土範囲3ヶ所、土坑9基、小穴279基などがあります。

中世では平成28年から30年度の調査においても3基の地下式坑(写真1)が見つかっています。それぞれの地下式坑の構造や規模にはばらつきがありますが、菩提横手遺跡にまとまって展開していることが推察されます。

縄文時代では竪穴住居の柱穴と考えられる小穴が数多く確認出来ました。それらのうちいくつかの小穴は、平成30年度に調査した竪穴住居の続きであることが判明しました(図4)。

- 調査期間 2020年7月1日～2020年8月31日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、縄文
- 所在地 秦野市菩提
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北北東約4km  
秦野盆地北縁の丹沢山地麓

